

施策	29	ふるさと意識の醸成	政策	2	地育力によるこころ豊かな人づくり		
施策主管課	生涯学習・スポーツ課	課長名	松下 徹	内線	3570	政策担当部長名	教育次長 澤柳 陽一
施策関係課名	歴史研究所・公民館・美術博物館・中央図書館・学校教育課						
重点施策	○	関連計画	飯田市教育振興基本計画、地育力向上連携システム推進計画、飯田市立図書館サービス計画 飯田市歴史研究所第3期中期計画				

1 施策の目的	
目的	対象 市民 意図 ①地域を知る ②地域を誇りに思う

**2 現状把握**

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	見込み 28年度
①	住民人口	人	105,691	105,335	104,757	103,947		102,000
成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	目標 28年度
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理								
①	飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(延人数)	人	49,693	41,358	48,465	59,169		42,000
②	ふるさと(飯田)を誇りに思っている市民(成人)の割合	%	76.5	75.9	77.2	75.5		80.0
③	ふるさとに愛着を感じている高校生の割合	%	71.1	-	-	76.8		75.0
④	この地域に住みたいと考えている高校生の割合	%	46.1	-	-	48.7		50.0

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体		役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度 実績	24年度	25年度	目標 28年度
行政	市(国・県)	①学習機会を提供する。 ②学習活動を支援する。 (学習活動には調査研究活動も含む) ③情報発信を行う。	①学習機会の数(社会教育機関における地域資産を活用した学級・講座の開催実績を集計、件)	① 1,423	1,636		1,200
			②学習活動の支援数(市民等の学習活動への共催・後援数及び講師派遣等の支援数を集計、件)	② 967	996		800
主体		役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項			
市民等	個人、各種団体	①地域資源を調査研究する学習活動を行う。 ②地域を学習する。 ③情報発信を行う。	①②地域学を担う団体数 ③情報発信数	・伊那谷研究団体協議会(伊那谷学の研究実践を多様な分野で担う16団体で構成)から、「伊那谷学」のとらえ方と、今後に向けた推進のあり方をまとめた方針が打ち出され、ふるさと意識の醸成のために、社会教育機関の事業や学校教育への積極的な連携の考え方が示された。			

**3. 平成24年度の評価結果**

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

<input type="checkbox"/>	計画どおり取り組めた
<input checked="" type="checkbox"/>	おおむね計画どおり
<input type="checkbox"/>	あまり取り組めなかった
<input type="checkbox"/>	達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

<input type="checkbox"/>	進んだ
<input checked="" type="checkbox"/>	ある程度進んだ
<input type="checkbox"/>	あまり進まなかった
<input type="checkbox"/>	進まなかった

#### 4 平成24年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

##### 【施策全体の評価】

・地域を知り、地域に誇りを持つ市民を増やすことを意図に、ふるさと学習の場の提供、地育力向上に向けた取組みを進めた。ふるさと学習については、美術博物館、歴史研究所を中心とした事業拡充を図り成果指標を高めることができた。また、飯田長姫高校の地域人教育を支援し、高校における取組みを推進した。地育力向上においては、伊那谷学を推進する16団体で構成する伊那谷研究団体協議会との意見情報交換を重ねて協働事業の企画実施に向けたネットワーク環境を醸成できた。

##### 【事務事業群テーマ別の評価】

###### <ふるさと学習の場の提供>

・美術博物館においては、伊那谷の自然と文化をテーマにした一般対象の専門講座と、子供向けの教室等を開催し、多様な地域資産に対する理解を促すとともに、学習意欲を高めることができた。  
・歴史研究所においては、地域の歴史と教育をテーマにした地域史講座、飯田アカデミアを実施するとともに、「飯田・上飯田の歴史」の発刊にあわせた出前講座、高校生以上を対象にした「公開歴史講座」を開催し、市民が歴史への関心を高める契機となる機会を提供した。  
・飯田長姫高校・松本大学と連携した「地域人教育」を公民館が中心となって支援し、高校生のふるさと意識の醸成や、地域貢献意欲の向上につながってきている。

###### <地域資産に関する情報の発信>

・美術博物館では、美博まつりの開催、新たに4本のドームシアター番組(遠山森林鉄道、中央構造線、桜、天龍峡)の作成等を行い、情報発信機能を強化した。  
・歴史研究所においては、第2期中期計画の重点課題であった「飯田・上飯田の歴史」の上下巻を発刊し、単位地域史の整備を進めた。

###### <地育力の向上>

・地育力向上連携システム推進計画の後期アクションプログラムに基づく事業推進を図るとともに、25年度に向けたプログラムの見直しを行った。  
・研究機関ネットワークの構築の一貫として伊那谷研究団体協議会との意見情報交換を4回実施し、地育力の主要な担い手ともいえる伊那谷学の後継者育成が今後の重要課題であり、これに協働して取り組むことを確認し合った。

#### 5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

・飯田市教育委員会としての「伊那谷の自然と文化」をテーマとした取組み方針を策定するとともに、社会教育機関である公民館、図書館、美術博物館、歴史研究所、文化会館が連携して、「伊那谷の自然と文化」をテーマとした多様な学習機会を積極的に提供する。  
・「飯田・上飯田の歴史」の発刊を契機として、飯田・上飯田の地域資産をテーマにした学習機会を提供する。  
・地育力向上を図るため、伊那谷研究団体連絡協議会と協働して、「伊那谷の自然と文化」をテーマとした入門連続講座を企画実施する。  
・小中学校におけるふるさと学習については、教科をはじめ多様な教育活動において更なる推進を図る。  
・飯田OIDE長姫高校・松本大学と連携した地域人教育については、全学年を通じた系統的な学習カリキュラムとして実施する。